

保育者に必要な音楽表現について

吉 森 恵

On the Expressive Skill of Music Necessary for Nursery Teachers

Megumi YOSHIMORI

近畿医療福祉大学紀要 第11巻 第1号

(平成22年度12月)

保育者に必要な音楽表現について

吉 森 恵

On the Expressive Skill of Music Necessary for Nursery Teachers

Megumi YOSHIMORI

The purpose of this paper is to examine what expressive skill of music is necessary for the students in nursery teachers college in order that they can develop child's expression ability and bring out the best in his/her sensibility.

The data to be discussed here were collected from the day nurseries where our students had practical training. Nursery teachers were asked to fill in a questionnaire.

Key words : expression, music, sensibility, nursery teacher

表現、音楽、感性、保育者

1. はじめに

保育所では、子ども達は歌を歌ったり、音楽に合わせて自由に身体表現をするなど、遊びの中で多くの音楽表現活動がみられる¹⁾。

保育士試験は、平成16年に全国統一の試験になるまで、各都道府県により試験問題が異なっていた。また、実技試験においても音楽に関する試験には必ずピアノ、声楽が含まれていた。しかし、統一の試験後は、音楽・絵画制作・言語の3科目のうちの2科目選択になり、必ずしも音楽を選択する必要はなくなった。その中で、音楽を選択した場合には、課題曲として童謡の弾き歌いが課せられている。伴奏は、ピアノ、ギター、アコーディオンのいずれかを選択でき、ピアノ伴奏には市販の楽譜を用いるか、添付楽譜のコードネームを参照して編曲したものをを用いるとし、ギター、アコーディオンで伴奏する場合には、

添付楽譜のコードネームを尊重して演奏することとなっている。また、移調して歌ってもよい²⁾。そのため、ピアノを全く触ったことのない者でも、ギターが演奏できればギターを選択できる。このように楽譜が読めなくても、コードネームが理解でき、メロディーがわかっているならば演奏できるのである。平井³⁾は、わが国のピアノ一辺倒の古い考え方を指摘し「西ドイツやオーストリアのキンダーガルテンではピアノを全廃したが、その第一の理由は、幼児教育にとって重要なことは、自分の歌声で自分の耳にはっきりと聞こえることであり、それにはギターとかタテ笛が良いという結論にたっしたからである」と述べている。しかし、日本の保育現場では、まだまだピアノの需要は大きいのが現状である。保育所保育指針の中の「表現」には、「感じたこと考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創

1) 近畿医療福祉大学 (Kinki Health Welfare University) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

造性を豊かにする」⁴⁾とあるが、現在このような状況の中で子どもの音楽表現活動をより豊かにするため、保育者に必要なことは何であろうか。

今回は子どもの表現を豊かにし、子どもの豊かな感性を引き出すために、保育者養成校の学生たちに、どのような音楽表現技能を身につけさせることが必要であるかを検討してみたい。尚、データを得るために、本学学生が保育所実習を行った保育所・園の中から兵庫県F町の保育者にアンケート調査を行った。

2. 調査方法

(1) 調査手続き

兵庫県F町の公立・私立の保育所・園の6園で、調査対象は、所長・園長、主任を含む保育者である。調査紙の配布は、直接園へ持参し、回収方法も同様に、直接受け取る方法をとった。保育者64名中59名(92%)から回答を得た。

(2) 調査時期

2009年10月

(3) 質問内容

「保育経験年数」、「採用試験での音楽について」、「音楽の得手不得手」、「保育現場での音楽の必要性」、「即興演奏について」、「保育現場で一番よく使う楽器」の6項目である。また、「保育者養成校の学生に一番伝えたいこと」を自由に記述してもらった。

3. 結果と考察

(1) 保育経験年数・採用試験内容

回答者の保育経験年数を6段階に分けたも

のを図1に示す。1年未満は2%、3年未満が15%、3年から5年未満が8%、5年以上10年未満は36%で一番多く10年以上20年未満は24%、20年以上は15%であり、全体の75%が5年以上の経験者であり、保育経験豊かな保育者が多い地域であることが言える。新任の保育者は、毎日が発見の連続で、どのような保育をしていけばいいのか試行錯誤し、少しずつ子ども達の援助の方法が理解できるのが現状であろう。一方、経験年数が多い保育者は、長年の経験から少し余裕は出来ているであろうが、子どもや子育て家庭を取り巻く状況は、保育関係者の努力により改善されてきた面もあるが、依然として課題や問題点も多く残されている。家庭や地域において人や自然と関わる経験が少なくなったり、子どもにふさわしい生活時間や生活リズムがつくれていなかったり、子育てに関する不安や悩みを抱える保護者が増加し、養育力の低下や児童虐待の増加などが指摘されてきている⁵⁾。これらを考えると、経験年数があっても、毎年入園してくる子ども達の状況は変化し、援助の方法、保護者の支援等は変わるため、日々研鑽の毎日であろう。

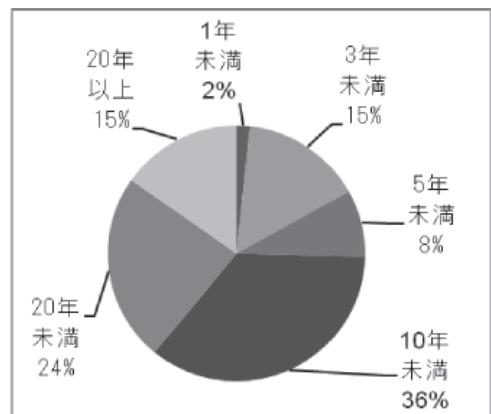


図1 保育経験 (n=59)

採用試験時にピアノの教則本の試験があったかの問いに、61%があったと答えた。その

うち、教則本と童謡の弾き歌いの両方があった者は42%であり、童謡の弾き歌いの試験だけがかった者は20%であった。一部に、音楽に関する実技試験がなかった者が全体の10%いた。しかし、殆どの保育者が、採用試験時に音楽に関する試験があり、ピアノ経験の少ない保育者は苦労したと思われる。

(2) 保育者の音楽の得手・不得手

保育者自身の音楽の得手不得手を図2に示す。音楽全般は得意であると答えた者は33%、ピアノ演奏は19%が得意と答えたが、41%は得意でないと答えている。養成校で初めてピアノを触った者にとっては、弾くだけで精一杯で、子どもの前で、子どもの様子を見ながら弾き歌いをするのはかなり難しいのではなかろうか。

歌うことについては、37%が得意と答え、14%が不得手と答えている。保育者が自分の声を十分使って子どもと一緒に歌おうとすれば、子どもの声の能力は自然に引き出される⁶⁾。しかし、保育者自身が自信なく歌うと子ども達にも影響を及ぼす。まずは、歌う喜びを引き出すことが大切である。そのことにより、保育者に教えてもらった歌を遊びの中でも楽し

みながら自由に歌おうとする意欲がでてくるのである¹⁾。基本的なことだが、メロディーはしっかり教えることは大事になる。メロディーの音を間違えて指導された子ども達は、その音が正しいと思い覚えていくのである。また、リズムも大事で、保育者の間違ったリズムを覚えると正しいリズムに直すのに時間を費やすことになる。

即興演奏については、得意でないと答えた者が66%と半数以上を占めていた。楽譜通りに弾くことの教育を受けてきた者には、その場の状況で臨機応変にしようと思ってもなかなか難しく得意でないと答えざるを得なかったのではなかろうか。

(3) 保育現場での音楽の必要性

現場での音楽の必要性に関する結果を図3に示す。保育所での音楽の占める割合を見ると、86%の者が多いと答えた。また、即興演奏で子どもを動かすことについては25%が多いと答えたが、即興演奏は保育者に必要であると答えた者は78%と半数以上であった。乳児を担当している保育者は、あまり、ピアノを弾く機会はないだろうが、幼児を担当している保育者は、その場の状況に応じた曲が自

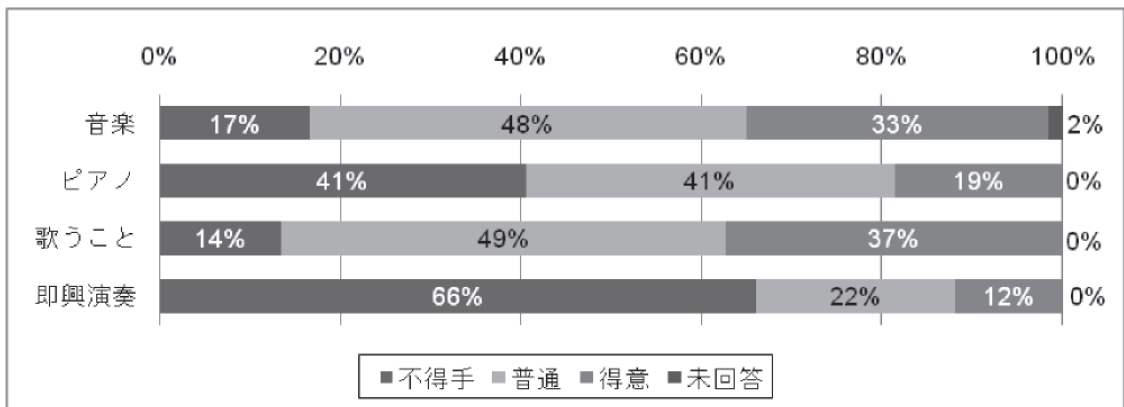


図2 音楽の得手不得手 (n=59)

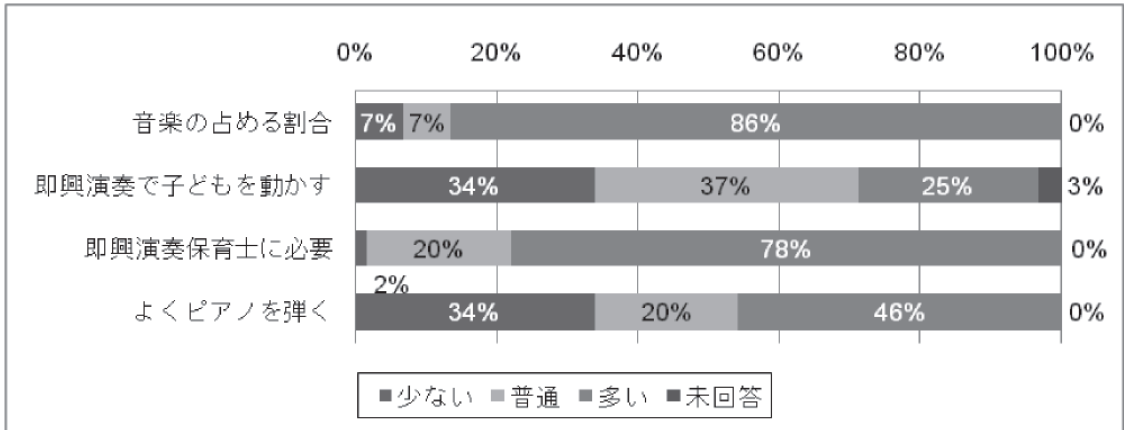


図3 現場での音楽の必要性 (n=59)

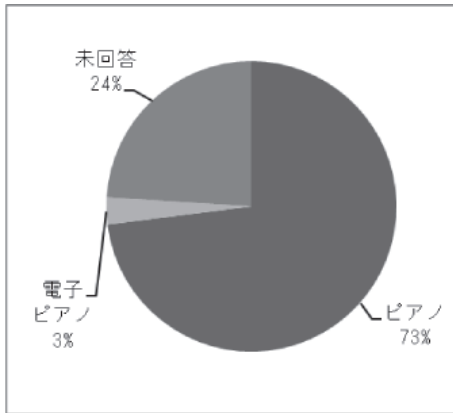


図4 子どもの前でよく使う楽器 (n=59)

由に弾くことができる能力は大事と感じているようだ。子どもの前でピアノをよく弾くことが多いと答えた者は46%と約半数であった。しかし、子どもの前で毎日ピアノを弾くことがなくても、日々練習をしておかないとピアノの苦手な保育者にとっては、必要な時にすぐに弾くことは大変であろう。

また、子どもの前で一番よく使う楽器は、図4のように73%がピアノであり、3%が電子ピアノであった。殆どの保育所に置かれている楽器がピアノである以上使うことが当然と感じているようだ。

(4) 自由記述から見る大学の音楽教育の必要性

自由記述では学生に一番伝えたいことについての記述を依頼した。自由記述のうち22%が音楽に関する記述であった。これは、何を示唆するのか。おそらく次のような理由によるものだろう。保育者自身現場に入り、毎日の保育において様々な活動に携わらなければならない。なかでも、子どもの前で伴奏する時などはやはり練習時間も必要になるが、現実には練習時間がなかなか取れないため、学生には養成校にいる間に基礎をきっちり学び現場に入ってから困らないようにしたいという願いが反映されているのではなかろうか。

4. まとめ

(1) 大学での音楽教育の必要性

調査を行った地域は、5年未満の保育者は少なく経験豊富な保育者が多い地域であることがわかった。保育所の中でも、乳幼児を担当している保育者は、毎日の保育の中では、子どもの音楽表現活動の中でピアノを使うことは殆どないであろうが、幼児クラスでは音楽の占める割合が大きく、ピアノを使って子ども達に教えるとなると苦手であっても、演

奏しなくてはならないのである。保育者が保育者養成校の学生に一番伝えたい音楽に関する記述に、「自分自身が大学で初めてピアノを習い苦労した」こと、「日頃の保育では簡易伴奏でもよいが、生活発表会等の行事の時は、簡易伴奏だけではなく原曲を弾く時もある」などがあった。また、「一度に何曲も弾くことがあるので、現場で働きだしてからは、忙しく長時間の練習がとりにくいため、学生時代に基礎をしっかり学んでおけばよかった」と答えた者もいた。さらには、「ピアノは必ず必要になってくる。日々の保育の中での曲は、簡易伴奏でもよいが、発表会や音楽会では、原曲で難しく長い曲になる事が多く、幼少からピアノを習っていないとなかなか指はうまく動かない。学生時代にもっと練習しておけばと後悔する。仕事を始めると、持ち帰りの仕事も多いし、なかなか練習の時間もとれない。大人になってからピアノを始める人は、人一倍練習が必要だと思う」や、「自分自身ピアノが苦手だが、子どもの心を捉える方法の一つとしてピアノがある。伴奏が上手くいった時など子どもが楽しみながらいきいきと歌っている。ピアノが弾ける保育者になってほしい」という記述もあった。このように、演奏の仕方でも子どもの動きに変化がある事を現場の保育者は、痛切に感じているようだ。平井³⁾が指摘しているように、現実にピアノだけが楽器ではないが、ほとんどの保育所にはピアノは設置されており、普段は使用しなくても、行事の時には、必ずといっていいほど使用されているのである。

保育者が技量不足から伴奏することだけに留意している状態であれば、子どもの様子を見ながら弾くこと等到底できるはずがない。そのためにも、伴奏譜自体を固定化するのではなく、各自の演奏レベルに応じて伴奏付けをし、保育者自身の演奏技術が向上するのに

伴い、伴奏を変えていけばよいのである。ただ、ピアノは苦手でも、簡易伴奏を使用するなど、即興演奏ができる保育者であれば、子どもの音域に合わせた移調も出来るようになり、より子どもの音楽表現を引き出すことが出来るのではないだろうか。

(2) 保育者の楽譜使用について

保育所実習前に学生は保育所に事前訪問に伺う。その時、保育所で実習時期に使用する楽譜のコピーをもらう。学生は実習までに子どもの前で使用曲の弾く曲の練習をしなければならない。楽譜の中には、もっと、簡易伴奏を使用してもいいのではないかと思われるような複雑な楽譜が以外と多い。また、子どもの声域では到底出せないような音が含まれており、移調すれば子どもが歌いやすくなるだろうと思う楽譜もある。しかし、現場の保育者は、その楽譜を使用し、子どもを歌わせていることになる。楽譜通りに曲を弾くことは大切なことではあるが、それだけでは子どもは楽しく歌うことが出来ないのではないだろうか。もっと、子どもの声に合った自由な伴奏をしてもいいのではなかろうか。

(3) 大学における音楽教育のあり方

保育者養成校では、子どもの音楽表現をより引き出すためにも、在学中に種々の応用力を身につけさせることが大切になってくるのではないか。学生の中には、ピアノ経験が全くなく、入学後初めてレッスンを受ける者もいる。特に、ピアノの未経験者は、短期間で習得しなければならないため、初歩の学生にも教則本と併用して、簡単なコード進行の童謡の楽譜を使用することが望まれる⁷⁾。また、初歩の学生には、「初めて」という不安を取り除き、練習すれば弾けるという自信をつけさせることが大事である。そのために、ピア

ノの基礎技能をしっかり身につけさせる必要があるが、さらに言うなら、ピアノ以外の楽器も演奏できることも必要ではなからうか。卒業生の中で保育所に勤務している者の中に、採用試験で子どもの歌の弾き歌いに自由に楽器を選択でき、ギターで臨んだ者がいた。園長から、なぜギターを選択したか尋ねられたそうだが、「どこでも自由に持ち運びができ、子どもの音楽表現の手助けが簡単に出来ると考えたからである」と伝えたところ、園長は、「そういう考えもあるんですね」と述べ、ピアノ以外でも十分伴奏ができることに関心を示されたようだ。しかし、採用試験時にピアノの試験を課すところは依然多くあり、保育所に就職を希望する学生は初心者であってもピアノの演奏技術を強化せざるをえない。

(4) 課題と展望

保育において音楽の基礎技能を習得するためにピアノはまず必要なものであると考えるが、現場では、何の楽器であれ子どもの動きに応じた即興演奏ができる力を身につけさせることがさらに大切である。また、子どもの前で音程を外さずリズム正しく歌える技能も不可欠な要素である。保育者がそうした技能を習得し発揮することが、子どもの音楽表現をより引き出す前提となるのではないだろうか。

<参考文献>

- 1) 吉森恵、奥美佐子：2歳児が生活の中で示す興味と表現に関する研究2, 20-21, 日本乳幼児教育学会 第5回大会研究発表論文集, 1995
- 2) 全国保育士養成協議会：過去の保育士試験問題
<http://hoyokyo.or.jp/exam/pasttest/>

h22/jisugi.php 2010/11/10

- 3) 平井信義：保育者のために, 225-226, 新曜社, 1995
- 4) 厚生労働省：保育所保育指針解説書, 96, フレーベル館, 2008
- 5) 同上書：8-9
- 6) 小田豊・神長美津子監修、野波健彦・坂良敷敏編著：保育内容表現, 50, 光生館, 2009
- 7) 吉森恵, 基礎技能(音楽)と表現との関連性について, 21-26, 近畿医療福祉大学紀要 Vol. 10(1), 2009

謝 辞

アンケート調査にご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

付 記

本論文は、2010年日本保育学会第63回大会において発表した原稿を加筆、修正を行なったものである。